

「ハレ」と「ケ」

新年あけましておめでとうございます。お正月はどのように過ごされたでしょうか。先月12月号では、失われていく季節感や伝統について書きましたが、さすがにお正月はふだんとちがった空気を味わったのではないのでしょうか。お正月には、特別な服や晴れ着を着た子もいるのでしょうか。



ところで、「晴れ着」「晴れの舞台」というように「ハレ」という言葉には、「ふだんとちがった」という意味があります。その反対の言葉に「ケ」という言葉があります。「ケ」というのは「日常の、普段の」という意味だそうで、今では朝餉(あさげ)夕餉(ゆうげ)という言葉が残っているぐらいです。

子どもたちにとって、「ハレ」とはもちろん正月行事もそうでしょう。学校生活ではどうでしょう？たとえば、参観授業。見られているという空気にかなり緊張するようです。同様に研究授業。これは私たち教員の授業力向上のための研修でもあるわけですが、同時に子どもたちにとっても、大勢の先生に見られているのは、なかなか日常にはないことです。

大勢の前で発表すること。学年発表集会は、本校では全員が経験するものです。たとえ、大勢の中の一人であっても舞台に立ち、脚光を浴びるとかなり緊張するようです。よく集会の折に、スポーツや絵画など、いろいろな賞をとった子どもたちを表彰しますが、これもなかなかの晴れの舞台です。無論、卒業式は一人ずつが舞台に立つのですから、ひときわ普段と違う空気感を味わいます。

運動会では私は本部席に座っていましたが、代わる代わるやってくる放送委員の子どもたちの表情やしぐさをみていて、微笑ましく思ったことがあります。ある子は、「次の種目は…」とマイクに向かって放送する前に大きく深呼吸していました。ある子は、放送の仕事中に時折、後ろを振り返っているなど、よく見るとその子のお母さんがずっと見守っていました。ライン係や次の種目のお知らせ係だってそうです。特に主役ではないけれど、その子にとっては晴れの舞台だったのです。

陸上大会やバスケット大会、音楽祭などの晴れの舞台で、子どもたちのこのような特別な姿を見ることが出来ます。応援する私たちは当然、期待してきているわけですし、その期待感で緊張することもあるでしょう。または、練習通りできるだろうか、勝てるだろうか、失敗しないだろうか等々の気持ちの裏返しでプレッシャーもあるでしょう。

毎日毎日の「ケ」の日々の中に、時折ある「ハレ」。それが子どもたちの成長につながるのでしょう。

以下は、ありがとうコンサート翌日、ある保護者の方からの連絡帳を通じての感想です。

略・・・みんなの澄み切った歌声を聴いていると本当にうるうるしてきました。練習もたくさんしたと思うのですが、それ以上にとても楽しんで歌っている様子がとても素敵でした。・・・

集中すると、緊張を超えて素晴らしい姿を見せる子どもたちの秘めた力。ゾーンに入ると、普段(ケ)以上の力を出すものです。今年もそれを引き出すのが、私たち大人の役割であり、楽しみでもあります。

学校長

貴志南小学校では、ホームページを設けています。<http://www9.wakayama-wky.ed.jp/kishiminami/>

※写真等は児童個人を特定できないように配慮しています。